項目	講評
読図前半	最初のポイントはヘアピンカーブ地点。それ以前に小さなカーブがあったため、最初の大きなカーブであることを読み取れなかったチームがあった。その場所ではわからなくても少し進むとわかったはず。後から訂正することもできる。 2番目のポイントは谷の源頭で、札は道が最も低くなった地点にかけておいた。谷から見れば、谷の中心線を上り詰めたところになる。 3番目のポイントは北に尾根が張り出しているところである。樹木で尾根の形がわかりにくくなっているため、難しい問題になった。 4番目のポイントは鉄塔の位置である。地形図には鉄塔そのものは書いてないが、このポイントは電線が折れ曲がる点だから、鉄塔のポイントとわかる。 最後のポイントは単純な分岐だが、F点の分岐と間違えたチームが多かった。F点を確認していれば次の分岐と気づいたはずである。
読図後半1	後半１の地点は、中間点を出発してほどなくして出てくる最初の谷筋であること、道が折れ曲がってること、西ハイキングコースから降りてくる分岐の道との合流点である(地図に表れている）などヒントの多い場所だったのでほぼどのチームも正解していた。
同図後半2	後半山道に入って谷沿いを登り、トラバース気味に徐々に高度を稼いでいくあたり、道が谷の一番奥を回り込む箇所です。 トラバース道が谷に出会ったら、谷の一番奥で山側に凸になるように鋭角に曲がります。この地点では北上していた道が西向きに方向を転換するので、コンパスで方角を確認すれば容易に判断できたはずです。 相談の声を漏れ聞くところでは、アップダウンを気にしているパーティーが目立ちました。多少のアップダウンは地形図にはあらわれないことも承知しておくべきです。自分たちがどの地点からどの方角に向かってどのくらいの時間（距離）歩いたのかを大まかに把握しながら歩くことも大切です。
読図後半3	Ｉ点（展望台）に向かう稜線の小ピークで進路を北西から西へ変える地点でした。 北東に分岐する道もヒントになったのではないでしょうか。 正解率は４４％（２７チーム中１２チームが正解）でした。 同じように西進するポイントはＩ点までにあと2か所ありますが、 ピークではないこと、頭上に送電線が無いことから区別ができます。 正解チームの解答中の様子を見ていると 「これまでたどった道の確認」「読図地点の地形、分岐の確認」「コンパスを使った進路方向の確認」 「遠望（今回は展望台との位置関係）」などチームメンバー全員で一つずつ確認していました。 チームで話し合うことでそれぞれの力が合わさるようでした。間違えたチームは今後の参考にしてください。
常識テスト	例年、よく出している基本的な内容でした。事前に勉強をしてきたチームにとっては優しかったのではないでしょうか。 2万5千分の１地形図の縮尺や等高線間隔は押さえておきましょう。 天気図関係の練習はまだ十分にはできていないように見受けました。出題した図では、緯線、経線の間隔はそれぞれ10度、低気圧の進行方向を聞く問題では、用紙の右が東なのではなく、経線の延びている方向が東です。今後とも注意しましょう。 　救急法については、皆さん自身が予防したり対応できるもの、また、実際の山行でよく発生するものという意図で、熱中症・捻挫・やけどを扱いました。よく理解して今後に役立ててください。 　装備では、「防寒具として適するもの」の回答にナイロンを選んだ人が多かったのが意外でした。羽毛は保温性が高いので有効です。ただし、濡れてしまうとその効果が極端に薄れるので、持参する際防水には十分注意する必要があります。

装備

今回は，次の５品をチェックしました。
＜ツェルト＞
殆どのチームが所持していましたが，使い方は知ってましたか？ツェルトは荒天時に怪我や体調不良などで行動不能になったとき，命を救う大切なツールです。緊急時にすぐ使えるよう，全員が使用法を理解しておいてください。
＜防寒具＞
今回は低山で高温期であったため，素材は問わず，所持の有無と防水のみチェックしました。本格的な登山では，ウール・フリース・ダウンなどの高い保温性を持った素材の防寒具が必要で，ウィンドブレーカーやジャージは不向きであることを知っておいてください。
また，不用意に濡らしてしまうと防寒に役に立たないばかりか，とても重くなってしまうので，着用時にも濡らさないように注意しましょう。
＜ライト＞
所持の有無のみをチェックしましたが，ワンプッシュでスイッチが入ってしまうものは，電池を抜いておく等して，ザックの中で勝手に点灯してしまうことがないようにすることが必要です。また，防水仕様でないものは防水にも留意してください。
＜水＞
水は負傷したときに傷口を洗い流すために必要で，飲用としてスポーツドリンクなどを持っているときも，必ず500ml程度は所持しておくようにしましょう。
＜雨具＞
とくになし